

きずな

学校教育目標「確かな学力と豊かな人間性を備え、
力強く生き抜く生徒の育成」

気張ることの出来る人に

TVを見ていると、京都（特に祇園）の方が、「おきばりやす」と言うシーンを見かけます。なんともそのひびきが京都らしさを感じさせます。

さて、この「きばる」という言葉、私の中ではずっと「がんばる」と同じ意味だと考えていました。ところが、先日ある小説を読んでいると、次のようなセリフがありました。

『「頑張る」いうんはなあ、『我を張る』こと。つまり自分一人の頑張り、独りよがりなことやなあ。それに対して、『気張る』いうんは『周りを気遣って張り切る』ことや。仕事は一人ではできひん。周りの人を巻き込んで、助けたり助けられたりして、いろいろな考えを一つにまとめて自分の力を発揮することや』

これは、その小説の主人公が、ある会社に入社したばかりの女性に語りかけたセリフです。その女性は会社の大切な海外からのお客様の接待で、集合場所を間違えて伝えるという失敗をして落ち込んでいたようですが、実はこの女性こそ、『気張る』事が出来る女性だったのです。

入社試験の際、面接控え室のドアを出たところに紙くずが落ちていました。これに気づき拾ったその女性は、近くにいたその会社の人にその紙くずを渡して『ひょっとして大切なものだといけないので、受けとっていただけませんか』と言ったそうです。

実はこの紙くずは試験の一つで、拾ってゴミ箱に入ればマル、そのままならバツというものだったので。しかしこの女性はその上をいき、『大事なものだったらいけない』

というところまで考えて、こうした行動をしたのです。このことでこの女性は入社試験に合格し、社長秘書に抜擢されたのです。

さて、失敗したと落ち込んでいた女性ですが、お客様が京都から出発される時に、真心込めてお見送りし、お客様が乗った車が見えなくなるまで、雨の中90度におじぎして見送ったのだそうです。それに気付いたお客様は、『これが日本のおもてなしの心なんだ』と感動し、社長宛にお手紙をくださっていたのです。

今年、本校では、『自分で考え、行動できる生徒の育成』を最重点事項としています。この小説を読みながら、私たちのめざしているのは、この女性のような『気張ることのできる生徒』だと思えました。

この女性は、入社試験での行動を『普通のこと』と言っていました。ぜひ、『気張る』ことが『普通のこと』とって出来るようになりたいですね。

私自身も改めてこうありたいと感じました。

よろしくをお願いします

本校HP、学校の様子を多数掲載しています。

